

令和2年度 都城市立小松原中学校 学校評価書

(4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要す)

目標	数値目標	評価項目	自己評価	生徒	保護者	現状分析	次年度に向けての改善策	学校関係者評価コメント	
豊かな人間性の育成 【徳育】誠実	いじめ0(解消を含む)の達成	項目ごとの評価	言語環境の整備	3.0	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1月現在、いじめの認知件数は合計6件で、すでに解消された事例が2件、経過観察中の事例が4件である。 ○ 経過観察中の4件についても、心配な状況はないとらえている。 ○ コミュニケーション能力について、職員の評価が3を下回っている。本年度コロナ禍の中で、SSTの取組が十分でできなかったためと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 例年実施してきたSST(ソーシャルスキルトレーニング)に継続的に取り組むとともに、道徳の時間のさらなる充実も図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ問題については、生徒の家庭環境にも注視する必要があると考える。家庭環境が荒れている生徒は心も荒れてくる。 ○ 自分の考えに都合の良い情報や心地よいことしか目に入らなくなっている。 ○ コロナ禍において様々なことが考えられるが、社会生活において一番重要な要素だと思えます。生徒一人一人の成長を期待します。 ○ コミュニケーション能力が未熟な生徒間では、いじめは必ず起こるという前提で対処すべきだと思います。次年度に向けての改善策は、なるほどと思いました。 ○ 先生方がすべてのいじめを認知されていて、その対処による成果が上がっていると評価します。SSTの取組も高学年になるにつれて成果が表れていて、さらにその充実を図る改善策をあげていることが評価できる。
			コミュニケーション能力の向上	2.9	3.2	3.1			
			特別の教科「道徳」の充実	3.1	3.5	3.1			
		総合評価	3.2						
確かな学力の育成【知育】努力	諸テストの結果で前年度を上回る	項目ごとの評価	基礎・基本の定着	2.9	3.4	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の自己評価が高く、教師・保護者の認識と異なる。 ○ 教師としては、まだまだ不十分という思いが強い。保護者と共通の認識である家庭学習の充実や主体的な態度の育成に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科で、キャンデュリスト等、自己評価できるものを作成してはどうか。それにあわせて個別に取り組める(指導できる)教材と時間を工夫 ○ 宅習等の内容・時間まで取り組み方を指導し、評価を行う。(教師、係) ○ 評価の項目を例示を加えるなど細かくすれば、ギャップがなくなるのではないかと <p>(学校関係者評価コメントを受けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 家庭との連携の在り方を考え実践する。 ◎ キャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上に関しては、学校と保護者と連携し育成を取り組んでほしい。 ○ 常に知識を更新し、新たな価値を生み出す「学びなおし」が必要 ○ 先生方にお任せの状態であり、申し訳ありません。 ○ 主体的に取り組む態度の育成の評価に差があるのが気になります。生徒の自己評価の根拠を分析する必要を感じます。私見ですが学力向上には「学習に向かう力」を高めるとい点が大事だと思います。キャリア教育などにより自分の将来をイメージさせ、そのためにやるべきことを自覚させることが重要だと思います。 ○ コロナ禍によって学力の低下にはなっていないのか心配である。 ○ 先生方と保護者の期待が生徒へ伝わるよう、個別指導等工夫されようとしていることは評価できる。
			主体的に学習に取り組む態度の育成	2.8	3.3	2.9			
			家庭学習の充実	2.7	3.2	2.7			
		総合評価	3.0						
たくましく生きる心と体の育成【体育】忍耐	生活習慣について、(全学年3・3以上)生徒・保護者の評価	項目ごとの評価	体力と競技力の向上	3.1	3.3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度コロナ禍の中で体育の授業や部活動に制限があり、体力の向上に十分取り組めない状況があった。 ○ 臨時休業等で、生活のリズムを崩してしまっているものが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎体力を高める取り組みを継続的に保健体育の授業で取り組む。 ○ 生活習慣の定着について、家庭との連携した取り組みを進めるために具体的な方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍での休業中、深夜徘徊など未成年の取り締まりも増加した。 ○ 生活習慣の定着について、学校と家庭が連携し取り組んでいく必要がある。 ○ 子どもの気持ちを尊重し子どもの希望を受け自ら経験に照らして助言し活動する。 ○ 自己管理能力の向上が家庭と先生の評価に差があるのを見ると、学校での生徒の様子が保護者に伝わっていない気がします。次年度の改善策の通り家庭との連携が大事だと思います。 ○ 家庭での取り組みが重要だと思います。 ○ 接触するような運動は大丈夫なのでしょうか(体育館等での授業) ○ コロナ下でリズムを崩しがちの生徒を学校あげて授業内外で生活習慣の改善や健康維持のための工夫をされようとしていることが評価できる。
			自己管理能力の向上	2.7	3.2	3.0			
			食育の推進	3.2	3.7	3.1			
		総合評価	3.1						
家庭・地域等との連携【連携】	貢献活動に対する地域からの評価3・3	項目ごとの評価	家庭・地域への教育活動の公開	3.0	3.1	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナの影響でなかなか地域の方との交流や地域に出るの関りなどができなかった。 ○ 資源回収や地区祭りが中止になったため、地域に貢献する機会がなかなかなかったが、3年生は神社公園の清掃に取り組み、地域への貢献活動を行うことができた。 ○ 小学校との合同あいさつ運動も実施を見送った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ対策をした上で可能な範囲での実施を目指す。 (例)総合的な学習の時間に人材バンクを活用した地域の職業人講話 ※人数を絞って対面 あるいはリモート 各学年、時期や時間をずらしての地域への貢献活動(清掃など) ※地域とは連携せず学校単独で実施 <p>(学校関係者評価コメントを受けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 地域におけるボランティア等の情報を生徒へ発信する取り組みを行う。 ◎ ボランティアを、自治公民館などとの関係での小規模のものを取り入れて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後のコロナの情勢を見つつ、地域と連携した活動を実施、模索してほしい。 ○ 現状厳しいとは思いますが、選択肢(情報)を示すのも一つの方法だと思います。 ○ 地域と連携する活動はありませんでしたが、地域生活で基本となるあいさつはきちんとできている生徒は多いと思います。これまで小松原地区の活動との連携でしたが、今後は自治公民館が取り組む地域清掃、花うえ、小学生の学習支援などに取り組むことで生徒の自尊意識を高めることもできるのではないかと思います。 ○ 地域活動は人と人とが接触する機会が増えるので、感染症対策を工夫する必要がある。 ○ コロナ下で実施できなかった諸活動を工夫して復活して頂きたい。 ○ 地域に對話のものを生み出すことを活動の中心に据える。
			地域人材の積極的活用	2.2	2.5	2.9			
			地域社会への貢献活動	2.4	2.5	2.7			
			大王小との連携の拡充	2.9	2.9	3.2			
総合評価	2.8								